

平成28年度

第2回海老名市総合教育会議

海老名市総合教育会議 会議録

(平成28年8月 第二回)

- 1 日 付 平成28年8月21日(日)
- 2 場 所 海老名市立東柏ヶ谷小学校
- 3 出席者 市長 内野 優 教育長 伊藤 文康
教育委員 平井 照江 教育委員 岡部 二九雄
教育委員 海野 恵子 教育委員 松樹 俊弘
- 4 事務局 教育部長 岡田 尚子 教育総務課長 吉川 浩
教育総務課総務係長 佐藤 哲也 教育総務課主事 魚谷 尚子
教育総務課主事 神福 壽子
- 5 開会時刻 午前10時00分
- 6 協議事項
 - (1) 児童生徒及び教職員の生活時間について
 - (2) 保護者の経済的負担のあり方について
 - (3) その他
(柏ヶ谷中学校区での身近な話題などについて)
- 7 閉会時刻 午前11時18分

○**教育部長** 皆様、おはようございます。ただいまから平成28年度第2回海老名市総合教育会議を開会いたします。私は教育部長をしております岡田と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

なお、進行につきましては、本日お配りしております次第によって進めさせていただきます。

初めに、市長と教育長からご挨拶申し上げます。

それでは内野市長、お願いいたします。

○**内野市長** おはようございます。平成28年度の第2回目の総合教育会議でございますけれども、この制度が始まって2年目になります。1年間は市役所で行ってございましたけれども、今年度から各学校、現場に出ていこうという形で、教育委員さんはもちろん学校をそれぞれ回っていますけれども、私も祭り等では会場の場合は学校に参りますけれども、ふだんはそんなに学校に参りません。学校の設備的に良いところ悪いところも見ていきたいという形で、2回目は今回、柏ヶ谷中学校区、東柏ヶ谷小学校で開催いたします。

本日は多くの傍聴の方がお見えになっております。傍聴の方は聞くだけではなくて、私のほうから振りますので、何かありましたらよろしくお願ひしたいと思ひます。しかしながら1つだけ、個人的な話は困りますので、学校一般に関することでお願ひします。本日は自治会長さんも見えているので、自治会のことは市長タウンミーティングでお願ひしたいと思ひています。小中学校とか、子どものこの地域における環境とか、そういった問題について、あるいはこういったところはどうか考えているかということもあろうかと思ひますけれども、しっかり時間をつくれますので。本日は3項目についてここで議論をしたいと思ひますけれども、まとめてというわけではなくて、随時、本日は学校の学区の校長先生もいらっしゃっていますから、普通、文句を言われるからと、学校の学区の校長先生はこういうところへ来たがりませんが、そういったことではなくて、本日はまとまりがよくて皆さんいらっしゃっていますから、そういった面では学校の校長先生にもお話を伺ひしたいと思ひています。どうかよろしくお願ひ申し上げます。

○**教育部長** ありがとうございます。引き続きまして、教育長お願ひいたします。

○**伊藤教育長** おはようございます。本当にこんなに多くの方に来ていただけてうれしいなという気持ちがまず第一でございます。総合教育会議ということで昨年度から始めて、市長さんのほうが主催して行っています。この形で言うと、こちら側が全部市長部局というか、市役所です。ここは教育委員さんと市長さんです。保護者の方々がいらっしゃいま

すが、簡単に言えば、この真ん中に子どもたちが座ってくると、ちょうど子どもたちのためにみんなで手を取り合って、どうしようかと話し合う場と考えられると思います。実際はこの教育委員と市長が話し合いをしますので、それをまず聞いていただきます。他の市だとここで聞いているだけで終わるのですけれども、毎回市長さんは多分傍聴人の皆さんに意見を聞きますので、そこで何か言っていただければと思います。これはある意味で言うと皆さんにも教育に参画していただくということです。例えば学区の4人の校長がいますけれども、この校長たちが学校は何をやっているのだよと地域の方がおっしゃるのではなくて、学校は何をやっていて一緒にやろうよというのがこのスタンスでございますので、そのような気持ちで皆さんもどんどん私たちとの会話を含めて入ってきてほしいなと。

例えばこの後、子どもの生活とか教職員の仕事の量とかの話をして。そのことを話すのに、例えば学校と我々だけではなくて、皆さんも入って話すことによって初めて、ではこうやったらよいだらうというのをみんなで考えようということです。その後、保護者の負担軽減、学校に子どもたちを通わせるのに経済的にもいろいろな負担があるから、それをどうしようかというのも今我々是一个の課題としています。それについても皆さんも一緒になって考える、そういう場になってほしいと思います。

柏ケ谷は本当に昔から学校、地域とか保護者が一体になっているわけです。それはいろいろあって、柏ケ谷中学校は大変な時期があって、先生たちだけではもうどうにもならないというときに、保護者の人たちがみんな力をそこに出してくれて、学校をみんなで支えようという気持ちがベースとしてある地域です。本当に学校を愛していただいていることに感謝します。また、これからいろいろなことをこのまま継続して、柏ケ谷中学校区は子どもたちのために行政も学校も地域も保護者の方もみんなで進めるような地域になって、また1ランク上がってほしいなと私は思っていますので、本日の総合教育会議、よろしくをお願いします。

○教育部長 ありがとうございます。

それでは、次第の3に移ります。総合教育会議と教育大綱についてでございます。この総合教育会議というものはどういうものなのか、それから昨年度からスタートいたしまして、第1回で市の教育の方針ということで教育大綱を市長が決めました。これについて教育総務課長吉川からご説明を申し上げます。

○教育総務課長 皆さん、おはようございます。教育総務課の吉川でございます。よろし

くお願いいたします。

では、次第の3の総合教育会議と教育大綱ということでご説明させていただきたいと思っております。なお、お手元の本日お配りしました資料を見ながら聞いていただければと思います。

まず1、総合教育会議でございますけれども、昨年の4月に施行されました地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部改正ということで新たに設置されたものでございます。本日お配りした資料にも書いてございますけれども、総合教育会議は市長と教育委員会が相互の連携を図りつつ、より一層民意を反映した教育行政を推進するために設けられた協議調整の場でございます。よって、会議を市長が招集した上で、原則、公開の場で議論、協議をしていくというものでございます。

また、具体的な協議調整事項につきましては3点規定されてございます。1つ目が教育行政の大綱の策定、2つ目が教育の条件整備など重点的に講ずべき施策、それから3つ目が児童生徒等の生命・身体の保護等緊急な場合に講ずべき措置。最近ではいじめですとかさまざまなことが言われております。そういったものが議題になってくるというものでございます。

また、開催回数につきましては、先ほど市長からもお話がありましたけれども、今年度につきましては各中学校区6学校区に出向いて開催したいと考えております。

続いて2、教育大綱でございます。教育大綱とは、市の教育、学術及び文化の振興に関する総合的施策についての目標や施策の根本となる方針でございます。これは市長が定めるものでございますが、まさに教育に関する基本的な方針を定めるものでございます。その策定につきましては、この総合教育会議において市長と教育委員会が協議調整した上で策定しております。なお、海老名市におきましては、これを昨年4月の最初の総合教育会議で行いましたので、恐らくでございますけれども、全国でも一番最初に大綱を策定したところではないかと思っております。

次に、具体的に海老名の大綱とはどんなものかを簡単に説明させていただきます。本日お配りした資料の後ろのほうにカラー刷りA4縦判をお配りしておりますので、こちらを見ながら聞いていただければと思います。

まず(1)目標でございます。「しあわせをはぐくむ教育」のまち海老名が海老名市の大綱の目標になります。具体的にどういう取り組みをしていくかでございますけれども、まず1つ目が、子どもと大人がともに成長する社会を築いていこう、それから2つ目でござ

いますが、子どもたちの今と将来のしあわせのために教育を行っていきこう、3点目といたしまして、家庭・学校・地域のためによりよい環境づくりをしていきこう。そして、これらはお互いに関連し合いながら、リンクしながら取り組んでいくということで目標を達成していきこうという取り組みでございます。

具体的な施策としましては、3つの柱を設定させていただきました。資料中段から下の部分でございます。①「えびなっ子」しあわせプランの推進。これは、実際の教育行政を進めていく上での具体的なアクションプランがこの「えびなっ子」しあわせプランでございます。それから2つ目、子どもと大人がともに学ぶ生涯学習の充実を図っていきこう。それから最後になりますけれども、安全安心な環境と新たな学校施設への取り組みを行っていきこうというものでございます。

雑ぱくではございますが、説明につきましては以上でございます。

○**教育部長** それでは引き続き、協議に入りたいと思います。案件につきましては次第のとおり3件となっております。

なお、先ほど市長もお話し申し上げましたが、会議中、市長から、よりよい教育のため、そして子どもたちのためにという趣旨で傍聴の皆様からご意見を頂戴する場合もございます。その際、申しわけありませんが時間も限られておりますので、簡潔にお願いしたいと思います。ご協力お願いいたします。

それでは、ここからの進行は市長にお願いしたいと思います。お願いします。

○**内野市長** それでは、協議事項1、児童生徒及び教職員の生活時間についてを議題といたします。これにつきましては前回は議論になりましたけれども、まずは事務局から説明をお願いいたします。

○**教育総務課長** それでは、私から児童生徒及び教職員の生活時間についてご説明させていただきます。今回、この議題で協議をしていくに当たりまして事務局で生活時間の調査を実施しましたので、概略をご説明いたします。

まず①の目的でございます。こちらは児童生徒及び教職員の1週間の生活時間の実態を把握するために今回実施いたしました。

②に実施方法でございます。児童生徒、それから教職員の2つに分けて調査をしております。児童生徒につきましては、市内の小中学校から小学校2校、中学校2校を選びました。合計4校を選んだ上で、小学生につきましては3年生と6年生の児童から各1名ずつ

つ、中学生につきましては1年生と3年生の生徒から各1名ずつを抽出させていただいて調査にご協力をいただきました。また、教職員につきましては、市内の小中学校から2校をそれぞれ抽出させていただきまして、初任者、いわゆる新任の先生、それから10年以上の経験を持っておられる先生、小中学校それぞれ4名の方をお願いをしております。

調査の実施期間につきましては、今年度6月20日（月）から26日（日）までの1週間行いました。回収率につきましては100%でございます。

次に、調査結果の代表的なものをピックアップしてございます。まず小学生についてでございます。こちらは小学校3年生の例でございます。お配りした資料ですと白黒でございますけれども、正面向かって左手のスクリーンにはカラーで表示してありますので、参考にいただければと思います。

まず学校に行っている時間が緑色のところでございます。それから赤色が習い事もしくは学習塾に行っているところです。それからピンクは家庭学習、家での勉強等でございます。そして青い色が遊びの時間を示しております。これらはほかのサンプルも含めて全体的に見たときにどのような傾向があるかをご説明させていただきたいと思っております。

まず習い事、学習塾でございます。こちらはおおむね平日は2時間程度、休日については1時間から2時間。当然子どもたちによって若干異なりますけれども、そういった傾向がありました。それから家庭学習につきましては、平日は2時間から3時間、休日は2時間から8時間。こちらは2時間と8時間は差があるのですが、恐らく調査したお子さんが一部、受験等か何かをされているのかなと思っておりますが、そういうところで差が開いたかと思われます。いずれにしても学習塾と家庭での勉強時間が多い方も見られました。

それから遊びでございます。平日は1時間から2時間、休日は2時間から4時間。また傾向としましては、学校から帰ってそのまま家庭学習に向かうというものもありますので、外で遊んでいる時間が少ないのかなという印象でございます。睡眠時間につきましては、おおむねどのお子さんでも9時間程度睡眠時間はとっております。

続いて中学校です。資料の中には中学校1年生の例をピックアップしております。先ほどの小学校に比べて、中学校の場合、部活動が入ってまいりますので、部活については今回、黄色で示しております。傾向を見ますと、習い事と学習塾は平日は1時間から2時間、休日については5時間から6時間となっております。家庭学習につきましては、平日、休日とも1時間程度でございますけれども、小学生に比べて家庭学習が減っているようにも見えますけれども、学習塾の時間がふえているような傾向がございます。部活につ

きましては平日は3時間から4時間、休日は5時間から6時間を費やしているということ
でございます。睡眠につきましては平日で7時間程度、休日でも8時間から9時間という
状況でございました。

続きまして教員でございます。小学校、中学校ともに10年以上の経験の方のモデルを記
載しております。

まず小学校の教諭ですけれども、緑色で学校と表示しておりますが、こちらは通常の授
業だけではなくて、先生方が行うさまざまな研究、また職員会議など、そういった会議も
含まれております。赤色につきましては教材研究を示しております、これは先生方が授
業を進める上で事前にどのように子どもたちに授業を進めていくかという研究をする時間
でございます。青色は余暇の時間でございます。

小学校の教諭の傾向としましては、学校にはおおむね8時間から9時間勤務しておりま
す。そして休日については出勤は特にございませんでした。一方、教材研究につきまして
は平日は4時間から6時間しておるのですけれども、休日につきましても自宅で2時間か
ら4時間程度平均的に教材研究をしていることがわかりました。余暇につきましては、平
日は2時間程度、休日は9時間から10時間程度ということでございます。

次に中学校の教諭です。先ほどの生徒たちと同じように、中学校になりますと部活動が
ございますので、それを黄色で記してございます。傾向でございますけれども、平日は学
校に9時間から10時間勤務しております、休日も2時間から5時間程度勤務されてお
ります。教材研究につきましては平日は4時間程度、休日は1時間程度、また余暇につ
きましては、平日は1時間、休日も1時間から4時間程度はとれているということござ
います。また部活動は平日は2時間から3時間、また休日については5時間から10時間ぐ
らい部活動に充てられて、子どもたちの部活に対応していただいているということであ
ります。また、今回の調査結果を見ていただければわかりますけれども、月曜から日曜ま
ですべて出勤されているということがわかるかと思えます。

以上が調査結果の概要でございます。これらをまとめますと、小学校の児童につきまし
ては休日を含む3日から5日程度習い事、これはミニバスケットボールですとか本日もや
っております少年野球、またサッカーなども含まれております。それから学習塾があつて
非常に忙しい生活を送っております。また家庭学習はするものの、遊ぶ時間が総じて少な
いかなという傾向があります。

また中学生ですけれども、家庭学習は減りますけれども、塾に行っている方が多いかな

と。また部活動をやっておりますと、1週間を通じて休みがないこともあるのかなという状況でございました。

次に先生方ですけれども、学校の授業等に加えて、教材研究にかかわる時間がとても多くて、1日で9時間から12時間勤務しているということで、多忙と言えるかと思います。また原則、小学校教諭につきましては休日出勤はなく、余暇の時間はそれなりに確保されているけれども、土日も教材研究を行っているということがうかがえるかと思います。

また中学校教諭ですけれども、教材研究等に部活動が加わっておりますので、平日のみならず、休日も7時間から十数時間勤務をしていることがわかるかと思います。そのため余暇の時間が中学校の先生につきましては少ないという状況でございます。

以上が調査結果でございます。

○内野市長 ご苦労さまでした。これにつきましては、本日初めて聞かれた方は、サンプルが少ないという話が前回ございまして、あくまでもどういう状況かというモデル的なものとして吸い上げたサンプルだという形で承知してください。教育委員会では年1回、きちんと生活における調査等をやっておりますので、それとは別個に今回のサンプルをとったという形で、すべての子どもたち、すべての学校の先生がこうかという、そうではありません。傾向上また別にとってありますので、今回、議論するに当たってのピックアップをしたということで承知をしていただきたいと思います。

それでは教育委員の皆さんから何かございましたらお願いします。

○海野委員 おはようございます。前回の総合教育会議でも話題になりましたが、小学生の場合はそれぞれのお子さんによって家庭での学習とか習い事は違うと思います。環境によってそれぞれ違うと思いますので、小学生の場合は遊びを取り入れながら家庭学習、習い事をそれぞれしていただければいいかなと思います。中学生の場合は、どうしても部活動が始まりますので、朝練の部活動に結構時間を取られてしまって、睡眠時間が少なくなったり食事の時間が少なくなったりしてしまうことが多いと思います。それにつけても遊びが少なくなって、ゆとりがない生活が多いかなというのはとても感じられました。ですので、朝の部活動というのは今後課題があるのではないかと思います。

次に先生方ですが、小学校の先生方は教材研究にとっても多くの時間を費やされて、子どもたちのために本当に指導を一生懸命されていることがすごくよくわかりました。小学校の先生の場合は余暇が多いので、少しはゆとりがある生活をなさっていらっしゃるのかなとは思いました。中学校の先生は教材研究もさることながら、部活動のほうに指導を多く

行っていると思いますので、先生方の余暇が少ないといえますか、先生方はゆとりを持った生活をされているのかなというのがとても心配に思いました。中学校の先生はもう少しゆとりがある生活を持って指導に当たっていただければいいと思いますので、部活動の指導の仕方、もう少しゆとりがある部活動であってほしいということが今後の課題だと思います。

○松樹委員 教育委員の松樹と申します。よろしくお願いたします。

今もお話が出ていましたけれども、小学校では子どもたちは比較的ゆったりで、中学に入るといきなり部活動等で忙しくなる。先生たちも傾向として小学校の先生たちは、ゆったりとは言いませんけれども余暇もとれてという形ですが、中学校の先生になると部活動というのが大きなウエイトを占めるのではないかと私は思います。後段でも出てきますが、海老名市でも部活動に関しましてはいろいろ補助等いただいておりますけれども、部活動というのは教育課程ではない話ですので位置づけが少し難しいかと思えます。ただ、部活動に入っている子どもたちの教育的効果というのは絶大なものがあると私は思っております。だからこそ今の部活動という宙ぶらりんと言ったら変ですが、文科省のほうでは子どもたちの自主的、自発的活動が部活動ですと言っておりますので、宙ぶらりんのような気がしているのです。その辺が中学校の生徒、そして先生たちをいろいろな意味で圧迫してしまっているのかなという気がしております。私は基本的に児童生徒、そして先生もゆとりある生活の中でお互いに教育活動をしていく、学校が運営されていくというのが理想だと思っておりますので、その辺で1点、問題が浮き彫りになったというものではないかと思っております。

○岡部委員 中学校の部活動が黄色くて目立つのですけれども、前回確か市長から、部活動の実態をもう少し調べるといいねというお話がありましたので、ぜひその辺は引き続きお願いをしたいと思います。

それから部活動に加入している生徒というのはどれぐらいの比率なのか。教育課程外だと今聞きましたけれども、ほぼ入らないと学校の生活がつらいというような雰囲気のものなのかどうか、その辺は後で教えていただきたいと思えます。

それから、ゆとりがないというのは確かにこのグラフを見てもいっぱいだなと思うのですが、実際の子供たちは、特に中学生などは忙しい。何かをしたいのにこんなに忙しいからできないんだよとか、そういう声があるのかなというのを感じました。

○平井委員 小学校と中学校の生徒児童の実態を見ますと、私が気になるのは食事の時間

です。小学校児童については各家庭の方針がありますので、一概にこうだという一定のものはないかと思えるのです。ただ、中学校については部活動の時間が長いということと、成長期にある子どもたちの食事の時間が22時あたりのところにある日がある日があるので、そういう中で子どもたちが睡眠時間等いろいろな生活の時間のバランスがどうなのかというところは1点気になります。

そして部活動なのですが、この間も新聞に載っていましたが、県のバスケット協会の会長がいろいろな方向で行政も含めてやっていかなければいけないのではないかと提言していましたが、ここのところは先生たちの時間も含め、子どもの生活時間も含め、先ほども調査という言葉が出ていましたが、実態調査をして、現状がどうなのか、効果はあるとバスケット協会の会長も言っていますが、実際にどういうものなのか、海老名市として子どもの意向はどうなのか、そういうあたりのところは今後少し調査をしていく必要があるのかなと思います。

それから先生方の生活なのですが、これははるかにオーバーをしていると感じます。勤務時間が17時までですので、それから何時間教材研究等をしているのか。それから食事の時間が相当遅い時間になります。先日、人間ドックに行った先生にお会いしたのです。そうしたら数値の高い項目があって、それを直すには、早い食事の時間と規則正しい生活をしなければという指導を受けたという話を聞いたのです。これでいくと、先生たちへの健康の負担というのも相当かかっているところから、もう少し学校としても、教育委員会としてもそうなのですが、先生たちの勤務体制というものを改めてここで考えていく必要があるのではないかと、この資料を見て感じたところです。

○内野市長 今、4名の委員さんからお話がありました。教育長と私については後ほどお話ししますが、本日、学校現場の校長先生がいらっしゃっていますが、それぞれすぐ校長先生になったわけではなくて、現場を持って校長先生になられたと思います。時代背景としては全然違うのですけれども、その辺についてはどうお考えですか。まず中学校の先生から。

○柏ヶ谷中学校長 部活のことについて今いろいろお話がありましたけれども、時間だけの問題で表面的に見ることが適切なのかなという思いはあります。人によってですけれども、部活動の指導をしたくて教員になったという者もいますし、逆に自分の専門ではない種目、内容の部活動を学校事情で持たされて、それがすごく大きなプレッシャーになってほかのことが手につかないぐらい負担がかかってしまう、負担感を感じている教員もいま

す。どんな仕事もそうですけれども、本当に自分が好きな仕事は、古い言葉ですけれども、寝食を忘れて打ち込んでも苦にならないということも当然あります。それは部活動をそう思っている者も当然います。逆に本当は教科の指導であったり、違うことの指導を志して教員になって、そうでない教員にとっては本当に苦痛になる。だから、ただ何時間部活動にかかわっているからということが物差しになって部活のあり方というのをざっくり切るとするのは、少し強引なのかなという思いはあります。

その部活動に対する思いの違いというのは、教員もそうですけれども、子どもも1人1人違います。本当に一生懸命やって県のトップを目指したいという子もいれば、自分の楽しみで上手になればいいという思いでやっている子もいます。保護者も同じです。ですから、そういういろいろな思いの中で最大公約数的なところをとるような形で部活動の指導をするわけですけれども、強くしようと思って厳しくやれば、それでまたいろいろお言葉をいただき、では休みを多くとれば取ったらでまたいろいろお言葉をいただく。顧問にとってもいろいろな考えの中で今苦しい状況で部活動にかかわっています。

先ほど松樹教育委員が部活動は教育課程には入っていないとおっしゃっていました。全くそのとおりです。ただ、文科省のほうでは学校の教育活動の中で非常に大きな効果があるということも言っています。両方、相反するようなところの中で今、部活動というのは実際中学校の中でも大きな問題としてあります。ただ、簡単な解決に向けてこうすればいいというのはなかなか出てこないかなど。もっと地域の皆さん、保護者、子どもたち、教員、あるいは行政が本当に時間をかけて考えていくことかなと考えています。

今回、リオオリンピックではシンクロで怖いコーチが帰ってきてメダルをとった。そのことで、がんがんやるということが肯定されていくのかなというのは、少し懸念をしています。レスリングもそうですし。そのあたりで教員が暴走しなければいいなとかいう思いもありますけれども、やらなければやらないで、またいろいろお言葉をいただくのも事実というところはぜひ知っていてほしいなと思います。

すみません、まとめませんが以上です。

○内野市長 小学校の先生はどうでしょうか。

○東柏ヶ谷小学校長 私のほうでこの中身で気になるのは、10年以上経験している先生方というのはそれなりの蓄積があって、結構いろいろな保護者のお話だとか校内で起きているトラブルのこととか、そういったようなことの対応の仕方は非常によくわかっている。経験の浅い先生はその学年でチームで対応していくわけですけれども、そういっ

たことを聞きながらしていくということも含めていくと、私が見ていると、土曜日などは地域の集まりとか、あるいは本日も野球をやっていますけれども、そういうのを見にきたりすると、先生方が来られているというのもよく見ることがあります。

確かに教員は小学校も中学校も多忙なのですけれども、今年度、非常によかったのは、教育委員会のほうで校務支援システムといって成績表の処理の仕方をパソコンで処理するシステムが導入されたことです。保護者の皆さんはご存じだと思うのですが、今年度からパソコンで打たれた成績表が小学校の場合は保護者の皆さんの手元に行っているのですね。それが要録に反映されたり出席簿に反映されたりと、今までの事務作業が非常に少なくなっているというのを感じて、これは本当に教育委員会を初め、行政のほうでもきちっと予算をとっていただいて多忙化を考えていただいているなということで、今回私のほうも全員の成績表を読んでみてチェックを何回かするのですね。そういったことをしていくと、そういう形で多忙感という部分については、これからまたかなり精査されていくと思いますけれども、教員のほうは非常に助かっています。子どものほうはまた後で出てくると思いますので、私のほうは以上でございます。

○内野市長 保護者の方で中学生とか小学生をお持ちの方、あるいは地域の方もいらっしゃいますけれども、まず部活動についてご意見があるという方がありましたらご発言をお願いします。短くお願いします。

○市民 長くは話せませんので心配しないでください。私のところは小学校の110番の表示をしているのですけれども、部活動で中学生が非常にハードだということで、中学生が飛び込んできて、結局この表のように部活動のないときも習い事だとか塾だとかスケジュール的に余裕がなく、親と衝突してしまい、けんかになってしまい、駆け込んできた子がいたのです。それでその話を聞いて、民生委員だとか学校だとか、それから警察のほうもいろいろ、結局親のほうで検索願を出したもので、当然そういうことはあり得るだろうと思って話を聞いたのです。その後、2週間ぐらいたってその子どもに会ったときには元気そうだったので、そういう話があったにもかかわらず、私自身はその後うまくいっているのか、親と子どもがうまくいっているのか、部活動はどうなっているのか、要するに生活はどうなって改善されているのかと内心心配しているのだけれども、どこからも何の話もないのですね。私自身がやきもきしているだけで、海老名市はそういう関連というものをどういうふうに思っているのか、その辺をお聞きしたいと思っております。よろしくをお願いします。

○内野市長 ほかにはございますか。

○市民 貴重なお時間を皆さん使われて議論されているのですけれども、やはりサンプル数が少な過ぎて、例えば小学校3年生と6年生を取ったと書いてありますけれども、6年生のデータがないとか中学生も3年生がないのですね。要はアバウトなデータのもとに皆さんでディスカッションをされても、それは単に思い込みだとかそういった机上の空論になりがちだと思うのですけれども、今後これはもっと調査をされるとかそういった計画があれば、したほうがいいのではないかという意見です。

○伊藤教育長 これを例えば全校調査でやると、家庭に1週間負担をかけると大変なことになってしまうのですよ。それだけのことを我々はこのために学校に負担とか保護者に負担をかけるかと考えたときに、子どもたちの傾向が見えるものであれば、それを発端にして話し合いの場とすることがいいのではないかと思います。もちろん先ほどの部活動をどう考えるとか、それぞれの課題については今後考えるつもりはあります。ただ、市全体の子どもたちの調査については、それが結構な負担になります。ここで話し合いのテーマとするには傾向がわかった中で行っています。ただ、おっしゃったように実は6年生もありますので、6年生はこうだ、3年生はこうだというのをまとめないで、中1も中3もあるんで、初任者、1年目の先生と10年目の先生と違いますので、それらのデータは省かないで、全部の項目を傾向として出すのが大切かなと思います。

○市民 それにしても傾向を見るには余りにも少な過ぎる人数だと思うのです。

○伊藤教育長 それについては検討しますけれども、ただ全体調査をやるのは、1週間子どもたちにこうやってやるのはかなり負担になるので、そういうつもりでございました。申し訳ありません。

○内野市長 保護者の方、ほかにはございますか。よろしいですか。

先ほど委員から出ていた部活動の参加率はどのくらい？

○教育部参事 海老名市の平均では85%の中学生が部活動のほうに参加しております。この学区の柏ヶ谷中学校についてもほぼ同じ率でございます。

○内野市長 よろしいですか。前回からこの部活動の問題で朝練とか子どもたちの関係とかいろいろ出ています。そのときに部活動の実態調査をする必要があるということでお話をしました。これにつきましては早急な形で部活動の調査に入りたいと思います。特に中学校の先生方、あるいは子どもたちに対してそれぞれやっていただかないとできませんので、どういった形が一番いいのか考えてください。先ほど心配したのは、今リオオリンピック

ックでは沸いていますけれども、日本人というのはおもしろいもので、それもあと4年後ですから、中学生ということになると15歳、4年後は19歳になりますから、何とかオリンピックの選手に出したいと思う方もいらっしゃると思いますけれども、そういった部分を含んで部活動の実態調査をさせていただきたいと思います。これにつきましては中学校の校長会等にも教育長とお話をさせていただいてやっていきたいと思っています。

もう1つ、2点目、平井委員からお話があった食事の時間です。食事の時間でいくと、見ていますと短い時間で食事をしながら全部20時以降です。小学生でさえも20時前後で、中学生は20時以降ですね。昔は18時ごろとかそのくらいの時間で、もう2時間もずれています。これについて健康面としてどうなのか、子どもたちの成長期の中でどうなのか、この辺を含めて、私どもの健康づくり課で一定のモデルを作って、あるいはそういった部分を養護の先生からそれぞれ指導していただくなど、そういった形にしていきたいと思っています。食事は意外と大切なことでもありますから、学校の先生のものを見てみますと、ほとんど家庭、家族で食事はしないのではないかと思うぐらいで、家庭不和に陥るのではないかと思うのですけれども、そういった部分で調査を少しやって、やはりこの部分では28年度は、部活動の必要性はそれぞれ学校も教育委員会も、あるいは地域の人も本日いらっしゃる方は認識していると思います。どう運営していくかというのが1つの問題でありますけれども、先ほど先生が言われた子どもと保護者の思いの違いというのはありますから、そういったことを含んだ実態調査をある程度できるような形、今後の部活動に生かせるような実態調査の把握をしていきたい。それから食事等につきましては、しっかりとしたマニュアルをつくっていききたいと思っています。方向としてこの2つだけ確認させていただいてよろしいでしょうか。

教育委員会では実態調査を踏まえながらその方向性を出して、できるだけ早目に総合教育会議に一定の方向を出していくという形、方向を出さないと学校もやっていけないので、そういった形をお願いをしたい。

○伊藤教育長 部活のほうは文部科学省から各市町村で方針を決めるようにと言われるのですけれども、本当に教育課程外でして、教育課程外というのはどういうことかという、簡単に言うと学校の教員の給料には部活の部分は入っていないということなのです。学校の先生の給料は、子どもたちに学級指導でする分と授業をする分は給料の中に含まれています。それ以外は特別勤務手当で、土日に働いても本当に微々たる金額が、要するにアルバイト料、時間外の勤務みたいにお金が支払われているという状況です。ですので、

正しい自分たちの職務の中にはないのです。

ただ、それがかなりの子どもたちにとっても有効であるというのも確かです。でも、さきほど言ったように15%の子は、これは自由ですから入らなくていいのです。そこに入らないでほかのクラブチームでやっている子もいるし、ダンスとかはそこにはないから、自分の好きなものを学校が終わったら行って習い事でやっている子どもたちもいっぱいいますし、もちろんそういうのは全然関係なく勉強している子もいます。それはそれぞれ自由だと思うのです。

ただ、部活動をしなればいけないという傾向ではある。学校の先生たちが直接指導していますので、そういう意味で生活指導等もかなり充実していますので、そういうことはあるのですけれども、ではどうするかというのは、私は検討委員会みたいなものを各地に開いて、これは校長会で言うてあるんですけれども、校長先生、部活の先生、それから子どもたちの意見も聞いて、できればお医者さんにも入ってもらいたいなと思っているのです。今、野球とかなんかを一生懸命やるけれども、中学校でひじを壊してしまうような子たちもいるし、本当に子どもたちの体に対してどれぐらいの運動が適切なのか、そういう多方面な方たちが入って部活動の検討委員会をやって、海老名市としてこのように部活動は決めますということをしていきたいと思っています。

それは年度内と言うのですけれども、さすがに年度内にやるのは大変だと思います。ただ、論議をこうやって巻き起こすということは大事だと思うのです。大体トラブルになる場合は顧問の先生の主張と保護者の主張がきちんと説明責任を果たしていない場合で、そこできちんと説明して、うちはこういう部活にしてこういうふうに指導するからねと、それに対してやりとりがきちんとあって合意形成ができてやっているところはいいのですけれども、子どもたちともそういう合意形成がちゃんとできるような形の部活も必要だなと思いますので、その点だけは早急にどんな部活にするかをきちんと話をして、子どもたちも共通理解を持って、保護者も共通理解を持ってやってほしいと思っています。

もちろん結果的に見ていると、部活というのは顧問の先生に全てを任せてしまうというのではなくて、どこの部活も保護者会みたいなのがあって、地域の方も応援してくれたり保護者の方も応援してくれますので、そういう組織がある部活は案外上手に回ったりするかなと思っていますので、部活の運営の仕方も含めて、早期に検討するものと海老名市として方針を出すものを分けて進めてまいりたいと思っています。よろしくお願いします。

○内野市長 方向性ですから、めどというか、できるだけ早急な形でお願いしたい。1つ

だけ現状面で、地域の方が見えていますけれども、ある中学校で朝練をやっていたら苦情電話が殺到している学校が今あります。朝からうるさくてしょうがないといった内容です。それを学校に訴えず、市のほうに来ているところがあります。子どもたちが活動しているのはうるさい、やめろと、そういった地域性が今出ています。私はこういった意見については相手にしなくてよいと言っています。そういった部分では、地域があつてこそ学校も運営できますので、本日は地域の方が多くいらっしゃいますので、どうか皆さん、よろしくお願ひしたい。

何と云っても、海老名は人口13万人になりましたけれども、若い人たちが住んでいるから13万人になりました。これは多くの若い人たち、新しい人が来ないと13万人までいきません。12万人を切ってしまう。ほとんど高齢者だけになってしまいます。高齢化の伸び率だけがどんどん伸びていって、若い人がいない。平均年齢がどんどん上がってしまいます。海老名は生産人口というか、若い人たちが住み始めているから増えていますから、ここで高齢者もふえますけれども若い人たちもふえるということで人口が増えてきて、いいバランスになっています。よって、そこには子どもたちが多くいらっしゃいますので、どうか地域の皆さんにも後援をお願い申し上げたいと思います。

では、この件につきましては今2点ほど確認されたことがあります。学校の先生からこれに関してはもうないですね。いいですか。

○市民 さっき食事の件で、昼食が書いていませんよね。でもとっていますよね。例えば今市長が言ったとおり昔は18時ごろ食べていましたよということで、学校の先生がずっと長くいたときに、そのぐらいの時間で例えば30分でもいいから食事の時間を入れるとか、そういうことをやってみたらどうでしょうか。横浜市立大学で私が勤めたときに、そういうような取り組みがありました。その間は食事をとって残りの仕事をやるというようなことがありましたので、そういうことも検討していただけないでしょうか。

○内野市長 ありがとうございます。小学校では教員はほとんど昼食は児童と一緒に食べています。中学校ですよね。昔は、先生は私のころからそうでしたから。

○柏ヶ谷中学校長 今、一緒です。

○内野市長 今一緒に食べているのですか。そうなのですか。変わりましたね。私のときは学校の先生は全然来なかったものね。

○市民 夕飯はどうですか。

○内野市長 夕飯ですね。それぞれ先生の実態もあろうかと思ひますけれども、時間が相

当ずれていますから、その辺も含めてご意見として承っておきたいと思えます。よろしいでしょうか。他にないようですので、協議事項1については以上といたします。

○内野市長 それでは次に、協議事項2、保護者の経済的負担のあり方についてを議題といたします。事務局から説明をお願いいたします。

○教育総務課長 それでは私から、議題2、保護者の経済的負担のあり方についてご説明させていただきたいと思えます。こちらはお手元にお配りした資料を見ながら聞いていただければと思えます。

まず、こちらは先ほど大綱のところでもご説明をいたしましたけれども、抜粋を掲載させていただきます。その中に海老名市教育大綱ということで安全安心な環境と新たな学校施設への取り組みということで、上の○で箇条書きになっております、安全安心な子育て環境の整備というものでございます。2点目、こちらは下線を引いておりますけれども、義務教育に係る公費負担のあり方の検討ということでございます。具体的には2つございまして、1つ目は小学校1年生、それから中学校1年生の教材費の無料化などを実施して保護者の負担軽減を図るものでございます。また、2つ目ですけれども、義務教育に係る保護者負担の軽減と学校徴収金についての検討を進めてまいりますというものでございます。

そういった中で現在、当市が行っているものを、これは教育部、それから市長部局の福祉にもつながってまいりますけれども、概要をまとめてございます。

まず教育の部分でございまして、①としまして昨年度から実施しておりました小学校1年生、それから中学校1年生の新生の児童生徒に係る教材費、例えば小学校でありますと漢字ドリルですとかそういったものがあろうかと思えますけれども、それぞれの家庭でご負担していただいたものを昨年度から全額公費負担をさせていただきます。

それから2つ目でございます。こちらは生活困窮世帯への就学援助でございます。

3つ目が奨学金でございます。これは海老名市内にお住まいの高校生が対象となりますけれども、現在40名ほど奨学金を給付させていただいております。

また④ですけれども、こちらは野外教育活動ということで、小学生につきましては活動費ですとか給食費等を全額、公費負担をさせていただいております。また中学生につきましては、活動費全般についての公費負担ということでございます。

次に⑤でございます。部活動費の充実ということで、他都市では部活動費を収集してい

るところもあると伺っておりますけれども、保護者の負担の軽減ということで部活動費に公費を投入して負担の軽減を図っているところでございます。

最後6つ目でございます。こちらは生活困窮者に対する学童保育料を、上限としましては1万2000円ですけれども、本年度6月から公費負担ということでスタートしております。

次に福祉関連でございますけれども、1つ目、子どもの医療費の助成でございます。近隣市でも小学校6年生ぐらまでは無料のところがございますけれども、海老名市では中学校3年生まで全額公費負担を行っております。

2つ目でございます。これは幼稚園でございますけれども、就園奨励費・就園援助費ということで、通っているお子さんたちへの援助、それから3番目として乳児への紙おむつの支給、それから4番目としまして保育料でございます。

海老名市としてはいろいろ行っておりますけれども、以上が一例として、雑ぱくでございますが説明させていただきました。

○内野市長 今、海老名市が実施している保護者の経済的負担軽減の具体的な例も挙げました。10月からは来年度予算の予算編成が始まります。予算の問題、お金の問題がありますけれども、これだけは教育委員さんから何とかできないかというご意見を賜りたいと思います。

○岡部委員 親の経済的な事情から子どもが学校へ通うのにいろいろ不便を被るとするのは、あってはいけないかなと思います。そういう意味でいろいろやっけていただいているのですけれども、この資料の中で就学援助についてぜひ拡充してほしいなと思います。生活保護基準の1.2倍で線引きをしていると前に聞きましたけれども、そうコンクリートされたものではなくて、その辺は少し柔軟に対応しているというお話でしたが、この基準、生保の1.2倍というのがガチガチのものなのか、できればもう少し上げてほしいなと思います。その財源が全部市の負担だということなので、持続可能なものでなければいけないので、いろいろ判断があらうかと思いますが、それが1つ目です。

それから、該当した場合にいつそのお金が支給されているのかという点です。必要なときに即対応するというのがこういう制度の趣旨だと思うので、いろいろな調査があらうかと思いますが、できるだけ新年度早々にお願いをしたいと思います。

幾つかありますけれども、私はこの就学援助をぜひお願いしたいと思っておりますのでよろしく申し上げます。

○内野市長 就学援助の関係については前回も議論がありました。いつ支給かというのは、今回改善されるという方向が出ていますので、教育長からお願いします。

○伊藤教育長 就学援助というのは皆さんのほうはあまりよくわからないかもしれないのですが、生活保護のご家庭だと、その保護費の中にその子どもにかかる学用品費などが出るのです。生活保護にはならないのだけれども、もう少し収入があるのだけれども少し厳しいなといった際、それがさきほど言った1.2倍になるというものです。生活保護になる基準の1.2倍の方々には、20%の0.2の部分の収入が少し多い方々についてもきちんと学用品費や、給食費、遠足に行ったら遠足の代金など、すべてをそのご家庭に支給するという制度なのです。これは、義務教育は憲法に定められていますが、それをきちんとやれるというための最初は国の制度だったのですけれども、国があるときから市町村でやってくださいとなって、現在は市単独でやっています。そういう中で実を言うとこれは4月に市長さんのほうから、現在のものは4月に申請するのだけれども支給は7月の中旬なのです。だから4月、5月、6月は何もお金が支給されないで7月に出るので、伊藤さん、それは何とかならないか検討してくれという話がありました。今検討して、できれば4月中に何とか配れないかなど。もしうまくいったら前の年に配れないかなど今検討している。今はまだ調整がありますので、はっきりは言えませんが、そのように進めているところでございます。

○内野市長 貧困の問題といったところで、中新田である一部、食事が食べられない方への取り組みということで、ボランティアでコミセンで始まったようですね。地域の人たちが集まって、家で食事ができない方にはコミセンへ来てもらって食べていただくような、そういう取り組みもできたそうです。

今後、市としてどうかかわっていくかという問題はありますけれども、私どもも一定の生活保護制度があって、その生活保護よりも少し上の所得の人たちが今、貧困であるとか言われて、その部分は今、就学援助とか、あるいは医療費無料化もそうでありますけれども、全部無料化にしています。中学生まで無料化にしますと、今、市の予算で5億円かかっています。所得制限を設定すると2割の人がこの恩恵を受けないことになります。2割の人が恩恵を受けないということは、一、二割、1億円ぐらい予算がうきます。所得制限を設けている自治体が多くあります。大和市もそうです。ワンコインでやっているところもあります。海老名は一切無料です。だから、ここの三角地帯でいくと、大和市が中学校までやっていますけれども所得制限あり、隣の綾瀬市はやっと小学校6年生になってい

ます。座間市へ行くと小学校3年までです。これだけ医療費の関係で違います。これについては、本来は神奈川県がやるべきだと私は言っているのですけれども、なかなかやってくれませんかから独自でやっていますが、予算の配分です。今回、中学校の医療費では、所得制限ありにすればそこそこのお金が出てきます。すべてをオールマイティーにやると、膨大なお金がかかります。よって、その部分は、ある程度バランスとか選択と集中とよく言うのですけれども、どこに集中しようかという形で、今年度からは教材費のところに1年生については負担が多いということでやりました。そういった部分がどう皆さんに結果として映っているか。全部が無料のほうがいいわけでありませけれども、検証をしようということで、やはり検証は必要だと思っています。そういった部分では一步一步やりたいと思っていますし、どうかお願いをしたいと思っています。

○海野委員 今お話が出ましたけれども、教材費ですが、ぜひ早急に教材費の内容を検討しながら全学年に公費負担できるようにご検討いただきたいと思います。

そのほかに私が希望したいのは奨学金なのですけれども、今、奨学金は40名と限られています。奨学金を希望されるという方はそれなりにご家庭の事情とかがあって、とても心苦しいけれども希望して書類を提出されるお子さんが多いと思うのですね。ですからぜひ奨学金を給付するお子さんの人数を予算面でもう少し増やしていただければと思います。よほど高額収入の方を除いて、なるべく奨学金をご希望される方は支給していただければと思っています。よろしく申し上げます。

○平井委員 教材費等を含めて、教育課程内で必要なものが保護者の負担軽減という形になってきているかと思うのですが、海老名のすべての小中学校の教育課程内で実施されているものの中で、例えば修学旅行とかそういうものというのは、特に中学あたりは相当金額がかかると思うのですね。ですから、そういうものの補助ができるならば、例えば交通費の補助、それから卒業アルバム等も今、全校でしていると思うのですが、教育課程内ですべての子どもが学び、経験するものについては補助ができるならば、義務教育ですので、できるだけ市で補助をしていく方針でできないかどうか、そのあたりのところはずっと長く続いているものですし、関わってきた中では修学旅行等のバス代等も相当かかります。保護者の負担もあります。ですから、そういうものの負担を少しでも軽減できるような方向で検討ができないかどうかと思います。

○松樹委員 保護者負担の軽減という形で市のほうからいろいろ援助を受けている中で、海老名市は大変手厚く受けているなという気がしております。私は妹が座間市で結婚して

子どもが2人おるのですが、いつもうらやましいと言われておりまして、私の子どもは今、上は高校生なのですが、下が中学校2年生で、去年は中学校1年生で教材費は無料という形で大変助かっております。今、平井委員さんのほうからもありましたけれども、教育課程の中でどうしても必要な支出というのがあると思うのですね。その部分に関しては軽減を図っていくべきなのではないか。それは仕方のない話ですので、一から十まで全部市が出してというのは少し私は違うかなという気がしておりますので、教育課程に関しては少しずつ負担を減らしていくというのを順位立ててこれからやっていくべきではないかと思っております。

○伊藤教育長 今、就学援助というのは、例えば修学旅行に5万円かかっても生活保護の方もお金が出ていますし、1.2倍の方も全部出ています。これは1.4倍でもそれぐらいまでは負担されています。ある程度収入のある方にはきちんといただきますよという制度にはなっています。だから中学校で修学旅行を5万円で行っても、生活困窮者だったりその基準にある人は、全部渡せるものは修学旅行は市から出しているのです。そういう制度があることはご存じのとおりです。

今、教材費というのは、子育てした方は集金袋がやけに来ると感じませんか。義務教育というのは無償じゃないかと思っていたのですけれども、どうも学校に入ったら4月に集金されたりいろいろ集金される。学校で使っているドリルとかなんかの子どもたちがみんなやってるものも保護者に負担してやっていただいているわけです。それが大体年間に1万円から、中学校だと1万5000円から2万円近くかかるのです。それらについては学校で共通に使うものだから市長さんの理解を得て、小学校1年生と中学校1年生はいろいろな準備があるから、学校へ行ったときのお金は全部公費で持ちますよということに今なっています。これを2年生、3年生、4年生をどうするかというのが課題です。ただそうなったときに、修学旅行費もアルバムもあるし、あと給食費もそうですけれども、どこの部分を公費を負担するかというのは市長さんの考えもあるし、多分保護者の方も考えがあるから、どこを保護者としてそこに充ててもらったほうが本当にありがたいのか、また子どもたちのためになるかというのはいろいろな政策的な判断もあるし、教育委員さん方、教育委員会の考えもあるし、これはこれから進めていかなければいけないなどは思っているところでございます。

○内野市長 保護者の方でこの件に関して何かございますか。

よろしいですか。修学旅行ですけれども、昔からこういう話をしているのですよ。海老

名市と白石市が姉妹都市なのですね。白石に泊まってくると都市観光友好協会という会から補助金がちゃんと出るのです。昔はさがみ縦貫道路もなかったですが、東北自動車道も整備がされて今直結していますから、日光に行くとすごく早く行けるのですね。少し足を延ばしていただければ、仙台を見て白石に泊まれば、その分少し安くできるのです。皆さん、市民ツアーで1泊2日で行かれているじゃないですか。あれは公費負担が今40%ぐらいです。1泊2日で個人の負担は1万四、五千円になっています。小学校の修学旅行費は合わせて大体2万円ぐらいだと思います。そう考えると、市民ツアーのほうが安いのですよね。そういった部分で少し工夫をしてくださいますかというのですけれども、なかなか難しい面があります。

それから中学生は昔は奈良・京都へ行かれましたけれども、今はいろんなところへ行っていますが、登別が姉妹都市なので、行っていただくと1日1泊6000円出ます。2日間泊まると1万2000円出ます。そういうツアーというのは、なかなか学校が今までのパターンがありますから、何年か前から準備が必要かもしれません。そういった部分で、先生、飛行機に乗せるのがおっかないのかな。

○伊藤教育長 いや、飛行機の問題ではない。

○内野市長 行程の問題でもいろいろあると思うのだけれども、私が学校に批判的なのはここだけなのです。農業世帯が海老名の中心部は多いですね。ところが、子どもたちは自分のところの田畑も耕さないのに修学旅行で農業体験をさせられます。それを見た親が、うちで農業をやっているのにどうしてやらないのだという話がありまして、これは参考の意見として聞いておいてください。

私ども、できるだけ保護者負担を軽減したいという形で動いていますけれども、大学の関係では一定の方向は今十分検討して、国は給付型が始まります。幾らかは給付型でやろうと考えています。大学の奨学金は2つあります。給付型と返還型。返還する、返していただくというものがありますけれども、海老名市は返還型の補助金を出そうかという方向に進んでいます。これは言い換えれば、4年間で大学を卒業するのに平均350万円から400万円かかります。これを10年間のうちに子どもたちが返すそうです。海老名に住んでいただければ、そのうちの何割かは海老名市が負担をする。

なぜそういうことをやるかという、海老名に住んでいただければ働いていただけますから、当然、市県民税、市税が入ります。その辺の税金を渡したらどうかという考え方で今進もうとしています。

この辺については、どういう制度がいいのかというのは国も今決まっていますから、国の動向を見ながら海老名市としての考え方を固めていきたいと思っています。

以上、そういう形でございます。

それでは2番をここで終結させていただいて、これにつきましては予算が絡みますので、教育委員会としてのご意見をいただきながら、10月以降の予算編成会議でいろいろな協議をしていきたいと思っています。学校につきましては、それぞれ教育委員会から予算要望がいろいろ出るとは思いますけれども、私は予算が切られたという話は嫌い、先生方も納得していただく予算編成をしたいと思っています。そういった部分では教育委員会とコンセンサスを持ちながら一生懸命議論をしていただきたいと思っていますので、よろしくお願ひ申し上げたいと思います。

○内野市長 それでは次に、協議事項3、その他（柏ヶ谷中学校区での身近な話題について）を議題といたします。本日は柏ヶ谷中学校、柏ヶ谷小学校、東柏ヶ谷小学校、杉本小学校の保護者の方々、また地域の皆さんもご参加をいただいております。何か身近な問題がありましたらよろしくお願ひ申し上げたいと思います。

まず本日は傍聴の方が多いので、傍聴の方からいろいろありましたら手を挙げてお願ひしたいと思います。市長タウンミーティングではありませんので、ここで返事できることはすぐ返事をしますけれども、ご意見として承っていききたいと思います。よろしくお願ひ申し上げます。

○市民 こんにちは。夏休み中ですがけれども、私は今現在、立哨ボランティアをやっています。年々年を重ねてくると、やる方が少なくなってくる。死ぬまでやるわけにいかない。これは自治会長ともよく話しているのですけれども、地域絡みで検討はしているのですが、昔はみどりのおばさんという方がおりました。ご存じの方もいると思います。立哨ボランティアのことについても何らかの形でもっと、てこ入れしてもらえばいいのかなと思います。子どもたちの顔を見ていると元気をもらいます。もっと頑張らなければいけないと思うときはありますけれども、あるときはきついなと思うときもあります。ひとつそういうことで、何らかの形でてこ入れしてもらえばいいのかなと思います。

○内野市長 登下校の立哨ですよ。

○市民 はい。

○内野市長 わかりました。

ほかにはございませんか。全く不満がないということによろしいでしょうか。

○伊藤教育長 不満を言うのではないでしょう。

○内野市長 不満じゃなくてご意見ですね。不満はあると思いますね。

○市民 私は海老名市のスキー協会の会長を今年からやっています。昨年ですと、海老名は雪がないのですけれども、スキー場に行くときすごく喜んで感激するのですね。そういうことで、去年、一昨年と3年生から6年生を対象に全校の募集をしてやりました。35人募集してやったのですが、実際には六十数名集まって、それでも40名がぎりぎりだなということで実施しています。これは先ほど言いました部活というか、スキー部というのはないと思うのですが、そういうような形で教育委員会と、スキー協会ができたのは平成24年9月ですから、共催してやれたらなと思っています。またご挨拶に行くと思いますけれども、ぜひ検討していただきたいと思います。

○内野市長 ほかにございますか。スキーというのは本当に子どもの時分にやらないとだめなのですよね。私も二十からやりましたけれども、やっぱり進歩しないです。しかしながら、北海道の人が全部スキーをできるかということ、できないのですよね。

では学校の校長先生、何かありますか。言いにくいということはないですね。

○東柏ヶ谷小学校長 話題にしてほしいのですけれども、柏ヶ谷学区は皆さんご存じのとおり子育て交流会というのを柏中が事務局になって、東柏小、柏小、杉本でやっています。それを語らせると柏ヶ谷中校長はたくさん語るのですけれども、その中で毎回グループ協議になるときに話題があって、それは今、携帯、スマホの話題です。そういう中で子どもたちのトラブルだとか、あるいは小学校の保護者は、いつごろから見たらいいのだとか、そういったようなことが非常にいつも話題に出てきます。もう杉本小と柏小は終わっているのですけれども、うちも9月にやります。そういうところで柏小の先生なども参加してくれるのですけれども、携帯、スマホを歩きながらやっている大人もいっぱいいます。そういう中で学校ではお話をしているのですけれども、当然こういう地域の中、特に柏中学区というのは地域の関わりがすごく強い方々が多いので、ここに地域の方々、保護者、PTA会長さんも来ていらっしゃると思いますので、そういったようなことをお伺いできれば。また、教育委員さんたちがどういったようなお考えを持っておられるのかということをお聞きできれば、柏中学区の身近な問題としてありがたいなと思います。

○内野市長 意見を聞いたほうがいいですか。それはいいのでしょうか。

○東柏ヶ谷小学校長 いいです、後でまた。

○内野市長 ほかにはございますか。スマホとゲームは難しいですよ。こっちのほうはわかりませんが、西部のほうにピナレッジという市民活動支援センターがあるんですね。1階に今の時期暑いから子どもたちが集まってきます。みんなゲームをやっています。それからポケモンGOなどのゲームなどいろいろなことをやっているのですけれども、それを大人たちが交流する場所ですから、場所がないと文句を言われます。私はそれで良いと思っています。そこにいるのが涼しくて一番安全ですから。だけど、よく学校の先生に、ゲームをやる時間が長くて困っています、何とか指導してくださいと言う保護者がいるのですが、そんなのはゲームなどを買うからそうなるのです。最初から買わなければよかったですよ。買った責任者は保護者ですから。私は常にそう思っています。買った責任者は保護者、これをどうやって子どもと約束、契約をするかなんです。

スマホもそうだと思います。スマホばかりいじくって困ってしまうという声を聞きます。それは最初からスマホを与えなければよかったのです。与えないと、いじめられてしまうという意見もありますが、それは違うと思います。そういった時代になってしまっていますから、どうやって保護者がその部分を考えていくか、どういう形をするかという一つの課題はあろうと思いますけれども、買ってから悩むというのは、買わなかったほうがよかったということでもあります。

ほかにございますか。なければここで終結しますけれども。

○伊藤教育長 これで終わるので、先ほど立哨ボランティアのこと、ありがとうございます。それを私、今考えると、さっきの方がずっと健康で子どもたちにかかわってもらうのが一番うれしいかなと思っています。でも、地域の中でそれを継いでくれる人が次々出てきてほしないと実際思っています。これというのは学校とか行政そのものがそうなのですが、私が今、とにかく学校を地域や保護者の方、みんなで支えようという学校づくりをしています。そのときに公費で何らかの人をつけて負担するのはとても簡単なですよ、お金を渡して。でも、そうなってしまうと、もう俺たちの関係するところではないよということになるので、そうではなくて、地域の人たちがもし力があったら、その人たちが力を出してくれるとありがたいと思っています。

でも、この連携はとても難しく、そういう意味で言うと、あなたのような方をみんなが称賛するというか、そのために子どもたちが助かっているとか、また子どもたちもあなたに対してそういう思いでずっといるとか、両者にとって良いというのか、やっていることに喜びとかなんかを感じる、そういうような活動に東柏ヶ谷小学校長が頑張ってやりま

すので、ぜひ続けてください。

そういう関係で地域と学校がつながることが絶対大事で、公費を負担することは簡単なのですが、そうではない方法で保護者の方、地域の方に助けてもらう。でも、その人たちがすごく喜びがあるとか子どもたちも助かっている。それを見た次の世代の人たちは、何々さんのように俺たちがその後を継ごうとする。そのもっと下の子どもたちが、僕が小さいとき、私が小さいときにそういう地域の人たちがやってくれたから、俺たちは今その年代になったのだから俺たちがやる番だとか、そういうリンクになると、今本当に薄れている人の絆とか、教育には絶対必要な人と人との関わりの勉強とか、そういうのがあると思いますので、無理なときは結構でございしますが、健康に留意してぜひ続けてください。そのことを言いたかったのです。

○市民 わかりました。

○内野市長 ここでよろしいでしょうか。ないようですので、協議事項の3については、以上といたします。以上で本日の日程はすべて終了いたしましたので、司会を教育部長に戻します。

○教育部長 ありがとうございます。

それでは事務連絡でございます。次回総合教育会議でございますけれども、10月22日（土）午後1時半から海老名中学校区での開催を予定しております。詳細につきましては広報えびなや市ホームページでお知らせをしたいと思っております。皆様のご参加、ぜひお願いいたします。

それでは、以上をもちまして第2回海老名市総合教育会議を閉会いたします。長時間にわたりありがとうございます。お疲れさまでした。